



平成 28 年 5 月 2 日

各 位

スパークス・グループ株式会社
代表取締役社長 グループ CEO 阿部 修平
(東証 JASDAQ スタンダード:8739)

平成 28 年 3 月期経營業績と前期経營業績との差異に関するお知らせ

平成28年3月期経營業績と前期経營業績との間に上場規程に定める基準を超える乖離が生じたため、下記を開示いたします。

- 平成 28 年 3 月期の連結業績(平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)と平成 27 年 3 月期の連結業績(平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日)との差異

連結経営成績 (百万円未満切捨て)
(%表示は対前期増減率)

	営業収益	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益
28 年 3 月期(B)	8,743	2,978	3,004	2,685
27 年 3 月期(A)	6,654	1,422	1,731	1,499
増減額(B-A)	2,088	1,556	1,272	1,186
増減率(%)	31.4	109.4	73.5	79.1

当連結会計年度末における当社グループの運用資産残高は、韓国の大口顧客より一部解約を受けたものの、当社グループが運用する日本の投資信託に対して継続的に資金が流入したことから、9,599 億円(前連結会計年度末は 9,615 億円)(注 1、2)と前連結会計年度末に比して微減に留めることができました。運用資産残高は微減となったものの、比較的報酬料率の高い日本の投資信託に対する継続的な資金流入により収益性が高まり残高報酬(注 3、5)は、前期比 38.1%増(注 5)の 66 億 47 百万円となりました。また、成功報酬(注 4、5)は、前期比 21.0%増(注 5)の 17 億 30 百万円となり、営業収益は前期比 31.4%増の 87 億 43 百万円となりました。

営業費用及び一般管理費に関しては、前期比 10.2%増の 57 億 64 百万円となりました。これは、韓国子会社に係るのれんの償却が第2四半期連結累計期間において全て償却完了したことにより減少したものの、運用資産残高の拡大に伴う支払手数料の増加、業容拡大に伴う人件費等の増加、業績に連動する賞与の増加などにより費用が増加したものです。

この結果、営業利益は前期比 109.4%増の 29 億 78 百万円、また、主に受取利息 1 億 3 百万円等の計上により経常利益は前期比 73.5%増の 30 億 4 百万円となりました。

さらに、当社が保有する投資有価証券の一部売却による投資有価証券売却益 5 億 56 百万円を特別利益に計上し、上場インフラファンド市場参入計画を見直すことになったことから当社連結子会社であるスパークス・アセット・トラスト&マネジメント株式会社買収時に発生したのれんの未償却残高を、保守的に全て減損したことに伴い特別損失を1億 84 百万円計上した結果、親会社株主に帰属する当期純利益は前期比 79.1%増の 26



億 85 百万円となりました。

(注1)当連結会計年度末(平成 28 年3月末)の運用資産残高は速報値であります。

(注2)当連結会計年度より、日本再生可能エネルギー投資戦略の運用資産残高の算定方法を変更しております。これに伴い前連結会計年度末の当社グループ全体の運用資産残高を9,241 億円から9,615 億円へ変更しております。

(注3)残高報酬には、日本再生可能エネルギー投資戦略に関連する発電所等の管理報酬を含んでおります。

(注4)成功報酬には、日本不動産投資戦略に関連する不動産購入・売却の対価等として受ける一時的な報酬や、日本再生可能エネルギー投資戦略に関連する発電所等から、資金調達に対価等として受ける一時的な報酬(アクイジションフィー)を含んでおります。

(注5)当連結会計年度より、日本再生可能エネルギー投資戦略に関連する発電所等の管理報酬をその他から残高報酬に、日本再生可能エネルギー投資戦略から発生するアクイジションフィーをその他から成功報酬に、それぞれ変更しております。これに伴い前連結会計年度の各収益を以下のとおり変更しております。なお、この変更は連結損益計算書の勘定科目に関するものではありません。

	前連結会計年度	当連結会計年度	増減率
残高報酬	(変更後)48 億 12 百万円	(変更後)66 億 47 百万円	(変更後) + 38.1%
	(変更前)47 億 84 百万円	(変更前)65 億 50 百万円	(変更前) + 36.9%
成功報酬	(変更後)14 億 29 百万円	(変更後)17 億 30 百万円	(変更後) + 21.0%
	(変更前)11 億 57 百万円	(変更前)10 億 53 百万円	(変更前) △ 9.1%
その他	(変更後) 4 億 12 百万円	(変更後) 3 億 65 百万円	(変更後) △11.3%
	(変更前) 7 億 12 百万円	(変更前)11 億 39 百万円	(変更前) + 60.0%



- 平成 28 年 3 月期の個別業績(平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)の個別業績と平成 27 年 3 月期の個別業績(平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日)との差異

個別経営成績 (百万円未満切捨て)
(%表示は対前期増減率)

	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益
28 年 3 月期(B)	833	△62	1,190	1,649
27 年 3 月期(A)	484	△21	1,290	2,029
増減額(B-A)	348	△41	△99	△379
増減率(%)	71.8	—	△7.7	△18.7

(△は、損失またはマイナスを示しております)

当事業年度において、日本再生可能エネルギー投資戦略及び未来創生投資戦略に係る投資事業組合の管理収入の増加により、営業収益は前期比 71.8%増の 8 億 33 百万円となりました。営業費用及び一般管理費に関しては、主に上記組合管理収入に係る子会社に対する支払手数料の増加により前期比 76.9%増の 8 億 96 百万円となりました。その結果、62 百万円の営業損失(前期は 21 百万円の営業損失)となりました。

また、子会社からの受取配当金 13 億 34 百万円等の計上により経常利益は前期比 7.7%減の 11 億 90 百万円となりました。

さらに、当社が保有する投資有価証券の一部売却により投資有価証券売却益 5 億 56 百万円を特別利益に計上したものの、関係会社株式評価損 6 億 82 百万円(注)等を特別損失に計上したため、当期純利益は前期比 18.7%減の 16 億 49 百万円となりました。

(注) 関係会社株式評価損の内容

当社が保有する関係会社株式のうち、連結子会社である SPARX Asia Capital Management Limited 株式について減損処理を行い 6 億 82 百万円の関係会社株式評価損を特別損失として計上いたしました。

上記の関係会社株式評価損につきましては、連結決算上は消去されるため、連結業績に与える影響はありません。

- 本件に関するお問い合わせ先
スパークス・グループ株式会社 経営管理部
TEL : 03-6711-9100 / FAX : 03-6711-9101